「ファリサイ派の人々と律法の専門家を非難する」　2023年07月14日

イエスは言われた。「あなたがた律法の専門家にも災いあれ。あなたがたは、人には背負いきれない重荷を負わせながら、自分ではその重荷に指一本も触れようとしない。あなたがたに災いあれ。あなたがたは、自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ。」（ルカ11：46～47）

主イエスが話し終えると、ファリサイ派の人々から食事の招待を受けたので、その家に入り、食卓に着かれた。主イエスは、ユダヤの共同体から排除された「罪人」と言われた人々としばしば食事を共にされたが、招かれれば、誰とでも食事をされた。招いた人は、主イエスが食事の前に身を清めなかったので、驚いた。彼らは食事の前には必ず身を清めるという戒めを厳守していたからである。主イエスは驚く彼らに、①「なるほど、あなたがたファリサイ派の人々は、杯や大皿の外側は清めるが、自分の内側は強欲と悪意で満ちている。愚かな者たち、外側を造られた方は、内側もお造りになったのではないか」と言い、内側に宿す強欲と悪意を捨て、できる施しを与えなさい、そうすれば、あなたがたは清くなるとたしなめられた。そして、「あなたがたファリサイ派の人々に災いあれ」と、災いを告げる言葉を繰り返し、彼らの偽善と高慢を批判された。②あなたがたは「十分の一を献げるが、公正と神への愛をおろそかにしている」と、形だけを整え、神への愛をないがしろにしていると指摘された。また、③「あなたがたは会堂では上席に着くこと、広場では挨拶されることを好んでいる」と、民衆から敬意を受けることを求めていると言われた。更に、④「あなたがたは、人目につかない墓のようなものある」と、その上を歩く人は汚れていることに気付かないと、内に隠された汚れを指摘された。すると、律法の専門家の一人が、「先生、そんなことをおっしゃれば、私たちをも侮辱することになります」と言った。律法の専門家はファリサイ派の人々のなかでも、数年、学びを深めた学者である。彼らは律法を民衆に教える自分たちへの侮辱は許されないと抗議した。主イエスは、「あなたがた律法の専門家に災いあれ」と、律法の専門家をも批判し、⑤「あなたがたは人には背負いきれない重荷を負わせながら、指一本も触れようとしない」と言われた。彼らは律法の専門家として、民に律法を解き明かし、守るように教えた。それは、負いきれないほどの重荷であった。強要しながら、重荷を軽くするように、手助けは全くしない。また、⑥「あなたがたは、自分の先祖が殺した預言者たちの墓を建てているからだ」と言われた。預言者は神から預かった言葉を語ったが、民は、彼らの言葉に反抗し、迫害し、殺害した。律法の専門家は、後になって預言者の言葉を理解して、墓を建て、敬意を表し、追悼していて、自らを信仰深いと正当化している。アベルはカインに殺され、ゼカルヤは祭壇と聖所の間で殺された。天地創造の時から流されたすべての預言者の血について、その責任を今の時代は問われている。過去の預言者たちの真実を評価するように振舞っているが、現在の主イエスに表わされた真実を見ようとせずに、敵対する、彼らの心の内を見透かされて言われたのである。⑦「あなたがたは知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々まで妨げて来た」と、誤った教えによって、自分ばかりでなく、「天の国」に入ろうと願う人々を遮ってきた。主イエスが家から出て行かれると、彼らは激しい敵意を抱き、言葉尻を捕らえて、福音の宣教活動を妨害しようと企んだ。主イエスは、ファリサイ派の人々と律法の専門家たちの７つの偽善を上げ、手厳しく非難された。